

幼年葬送式

この式は洗礼を受けた幼な子に用いる。
司式者は棺を迎え、これにさきだつて聖堂あるいは墓に行くとき、次の聖語の一節または数節を歌いあるいは唱える。

葬祷

主言いたもう、我はよみがえりなり、命なり、我を信ずるものは死ぬとも生きん。
おおよそ生きて我を信ずるものはとこしえに死なざるべし ヨハネ伝一章二五、
二六節

なんじら慎みてこの小さき者のひとりをも悔るな。我なんじらに告ぐ、彼らの御使いたちは天にありて、天にいますわが父の御顔を常に見るなり マタイ伝一章一〇節

我らは何をも携えて世にきたらず、また何をも携えて世を去ることあたわず。主あたえ、主取りたもうなり、主の御名はほむべきかな テモテ前書六章七節、ヨブ記一章二一節

聖堂に入りまたは墓に行つて次の詩を歌いあるいは唱える。

詩二十三篇

父と子と聖霊に栄光あれ
始めにあり、今あり、世々限りなくあるなり アーメン

ここで聖マルコの福音書一〇章一三節から一六節までを朗読する。

司式者	主よ、あわれみたまえ
会衆	キリストよ、あわれみたまえ
司式者	主よ、あわれみたまえ

次に一同、主の祈りを唱える。

天にします我らの父よ、願わくは御名を聖となさしめたまえ。御国をきたらしめ

たまえ。御心を天におけるごとく、地にも行わしめたまえ。我らの日用の糧を今日も与えたまえ。我らに罪を犯すものを我ら赦すごとく、我らの罪をも赦したまえ。我らを試みにあわせず、悪より救いいただいたまえアーメン

司式者

主なんじらとともにいますことを

会衆

主なんじの霊とともにいますことを

司式者

我ら祈るべし

主イエスキリストよ、主は幼な子をいできて祝したまえり。我ら主のいつくしみを堅く信じて、この幼な子を主の大いなる愛の御手にゆだね奉る。主は父と聖霊とともに一体の神にましまして世々限りなく統べ治めたもうなり。アーメン

命のもとなる全能の神よ、主の摂理はくすしく、いつくしみは量りがたし。願わくはこの幼な子のために嘆くしもべらを慰め、この世にては主を信じ、主に仕え、とこしえの御国にては彼とともに主の約したまえる幸いにあずかることを得させたまえ。主イエスキリストのいさおによりてこいねがい奉る。アーメン

ここで適当な祈りおよび次の語を用いてもよい。

司式者

主の御前にはみち足れる喜びあり

会衆

主の右にはもろもろの楽しみ、とこしえにあり

願わくは世を去りし幼な子の魂、主のあわれみによりて安らかにいこわんことを。アーメン

聖餐式

葬禱につづいて聖餐式を行なうときは次の特禱、使徒書、福音書を用いる。

特禱

限りなく生ける神よ、主はたえなる知恵をもって天の使いと世の人との位を立て、その務めを定めたまえり。願わくは天において常に主に仕うる御使いに命じて、地にある我らを守らしめたまえ。主イエスキリストによりてこいねがい奉る。アーメン

使徒書 黙 五章一一一—四

福音書 ヨハ 一章四七—五一

告別

葬持または聖餐式につづいて次の告別を用いてもよい。
司式者は棺のかたわらに立って、会衆とともに次の詩を歌いまたは唱える。
詩の前に司式者または始唱者は次の語を用い、栄光の頌の後には一同で用いる。

彼は主より幸いをうけ その救いの神より語をうくべし

詩二十四篇

父と子と聖霊に栄光あれ

始めにあり、今あり、世々限りなくあるなり アーメン

司式者 主よ、あわれみたまえ

会衆 キリストよ、あわれみたまえ

司式者 主よ、あわれみたまえ

次に一同、主の祈りを唱える。

天にします我らの父よ、願わくは御名を聖となさしめたまえ。御国をきたらしめたまえ。御心を天におけるごとく、地にも行わしめたまえ。我らの日用の糧を今日も与えたまえ。我らに罪を犯すものを我ら赦すごとく、我らの罪をも赦したまえ。我らを試みにあわせず、悪より救いくださいたまえ アーメン

司式者 罪なきゆえになんじは我を受けたまえり

会衆 なんじは、とこしえに我を御顔の前におきたもうなり

司式者 主なんじらとともにいますことを

会衆 主なんじの霊とともにいますことを

司式者 我ら祈るべし

いづくしみ深き全能の神よ、主は洗礼を受けて新たに生まれ、御定めによりて世を去りし幼な子に限りなき命を与えたもう。願わくは我らに御恵みを与え、この

世にて忠実に主に仕え、ついに天の御国にて彼らとともに、とこしえの幸いにあ
ずかることを得させたまえ。父と聖霊とともに一体の神にましまして世々続べ治
めたもう御子イエス・キリストによりてこいねがい奉る。アーメン

次に司祭は言う。

願わくは世を去りし幼な子の魂、主のあわれみによりて安らかにいこわんことを。
アーメン

埋葬

墓に行き棺をおろす間、司式者は墓のかたわらに立って次の語を唱えまたは会衆
とともに歌う。

女より生まれし者はその日少なくして、なやみ多し。そのきらること花のごとく
にして散り、その馳すること影のごとくにしてとどまらず
主は牧者のごとくその群れを養い、そのかいなにて小羊をいだき、これをそのふ
ところにいれて携え、乳をふくまする者を柔らかに導きたまわん
なんじら心を騒がすな、神を信じ、また我を信ぜよ。わが父の家には住みか多し、
しからずは我かねてなんじらに告げしならん

ここで司式者が次のように言うとき、かたわらに立つ者の棺の上に土を投じる。

全能の神、大いなるあわれみをもって我らが愛するこの幼な子を召したまいたれ
ば、今そのかばねを地にゆだね、土を土に、灰を灰に、ちりをちりにかえし、終
わりの日のよみがえりと後の世の命とを主イエス・キリストによりて堅く望む。
主イエス世をさばかんとて大いなる威光をもって再びきたりたもうとき、万物を
おのれに従わせうる力をもって、主にありて眠れる者の卑しきからだを変え、そ
の栄光のからだにかたどらしめたもうべし

ここで司式者は次の語を歌いまたは唱える。

彼らは神の御位のまえにありて、昼も夜もその聖所にて神に仕う。みくらに座し
たもう者は、彼らの上に幕屋を張りたもうべし
彼らは重ねて飢えず、重ねてかわかず、日も熱も彼らを侵すことなし
御位の前にいます小羊はかれらを牧して命の水の泉にみちびき、神は彼らの目よ
り涙をぬぐいたもうべし

司式者 主よ、あわれみたまえ
会衆 キリストよ、あわれみたまえ
司式者 主よ、あわれみたまえ

次に一同、主の祈りを唱える。

天にします我らの父よ、願わくは御名を聖となさしめたまえ。御国をきたらしめたまえ。御心を天におけるごとく、地にも行わしめたまえ。我らの日用の糧を今日も与えたまえ。我らに罪を犯すものを我ら赦すごとく、我らの罪をも赦したまえ。我らを試みにあわせず、悪より救いいだしたまえ アーメン

司式者 幼な子の我にきたるを許せ
会衆 神の国はかくのごとき者の国なり
司式者 主なんじらとともにいますことを
会衆 主なんじの霊とともにいますことを
司式者 我ら祈るべし

いとあわれみ深き父よ、我らこの幼な子の魂を慈悲の御手にゆだね奉る。願わくは我らに恵みを与え、この世にて主をおそれ、主を愛し、この世を去るとき、主のいつくしみによりて平安にいらうことを得させたまえ。願わくは終わりの日のよみがえりの時、彼とともに我らを御心にかのう者と認め、御子イエス・キリストより、わが父に祝せられたる者よ、きたりて世の始めより、なんじらのためにそなえられたる国を継げとの御声をきく幸いにあずからしめたまえ。我らの贖い主イエス・キリストによりてこいねがい奉る。アーメン

全能の神・慈悲の父よ、悲しむ者に御力を与えたまわんことをせつに祈り奉る。願わくはすべての思い煩いを主にゆだね、主の愛の慰めを悟ることを得させたまえ。主イエス・キリストによりてこいねがい奉る。アーメン

次に司祭は言う。

願わくは世を去りし幼な子の魂、主のあわれみによりて安らかにいこわんことを。アーメン